

【実践報告】

公立小学校教員採用試験などに向けた取組の実際

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 三田 幸司

1 令和4年 教員採用試験対策チャレンジセミナーの実際

本学では、学生が主体となって教員採用試験に向けた取組を行っており、各ゼミや受験する自治体別の勉強会の他にも、学生からの依頼を受けて本学教員がチャレンジセミナー（以下、セミナー）を実施している。セミナーの取組は、課外で行われる自由参加型であり、学生の主体的な学びを教員が支援するものである。開催時期によって春季セミナー、前期セミナー、夏季セミナーに大別でき、後期には臨時的任用の対策や説明会も行われている。各期のセミナー以外にも、各教員の専門教科・領域等の内容にかかわる指導や、教職センターの教職アドバイザーによる模擬授業や面接の指導は随時行われている。本年も新型コロナウイルス感染対策のために対面による取組が一部制限されたが、セミナー委員をはじめ各県人会の学生の努力と創意工夫によって取組を継続することができた。以下、本年の取組の概要を報告する。

1.1 春季セミナー

春季休業中には春季セミナーが実施された。昨年度と同様に、事前に学生のセミナー委員がMicrosoft formsを用いて各学生へ開講を希望する講座を調査し、その結果を集計・検討して教員への依頼を行いながら時間割を調整していた。完成した時間割はLINEを用いて各学生へ通知された。学生からの依頼を受けるのは教育学科の教員が中心ではあるが、人間福祉学科の教員による講座が本年も開催されており、全学的な取組が継続している。

令和4年2月21日の2コマに、まずはスタート会が行われた。参加者が多数となることから、新型コロナウイルス感染対策のためにMicrosoft Teamsを利用しての開催となったが、学生と教職員80名以上が参加した。その後、3コマの時間帯から春季セミナーが始まり、こちらもMicrosoft Teamsを利用して遠隔で行うことになった。基本はライブ配信であったが、Wi-Fi環境が不安定な学生がいたことから、録画の視聴も行えるように対応した。春季セミナーは3月11日の3コマまで続き、4コマには振り返り会が開かれた。

1.2 前期セミナー

4年次前期になると、授業や卒業研究などと並行して前期セミナーが行われる。このセミナーでは継続した取組が必要な内容や1,2回では終わらない内容が主に扱われており、今年度もセミナー委員の学生が事前調査を行って、教員と学生の空きコマに合わせて時間割を組んでいた。ここ数年、新型コロナウイルス感染対策のために教員採用試験におけるグループワークや実技等を中止する自治体があったが、状況によってはそれらが再開されることも想定し、セミナー委員はいつでも対応できるように準備を行っていた。今年度、前期セミナーとしてセミナー委員が時間割を作成した内容は表1のとおりであったが、その他にも、学生個人または数人の依頼を受けて、教員や教職アドバイザーによる個別指導が行われていた。

【表1：前期セミナーの時間割（セミナー委員調整分）】

コマ	月	火	水	木	金
1	音楽実技	(中等国語)			
2	初等国語				
3					
4	体育実技		情報教育		教職教養
5	図画工作	数学演習			

1.3 夏季セミナー

まず、夏季セミナーへ向けて6月8日に教員採用試験へ向けての団結式（スタート会）を行った。学生に加えて教員も参加し、試験への意欲と、仲間と団結する気持ちを高めた。昨年の団結式は6月30日であったが、6月中旬には二次試験が行われる自治体があったことから、本年はそれより前に行われた。



【写真1・2：団結式（夏季セミナー）】

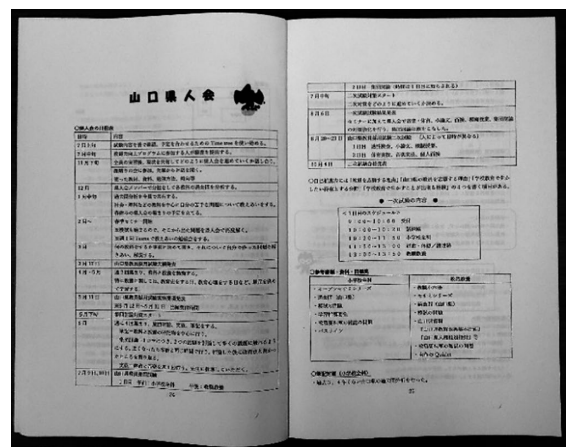
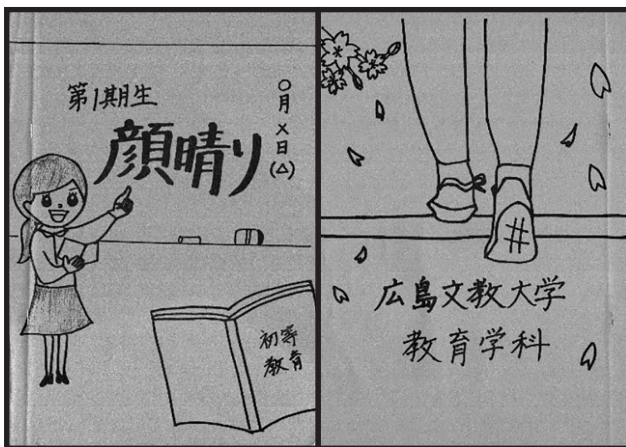
その後は、一次試験が終了した県人会から順に、二次・三次試験の対策を行う夏季セミナーが開始された。今年度の内容は、模擬授業、面接、模擬授業面接、音楽実技、体育実技、英語実技、集団討論等であったが、新型コロナウイルス感染対策などのために、一部はMicrosoft Teamsによって行われた。

夏季セミナー開始に向けては、ここ数年、予定の組み方に変化が見られる。令和元年までは、セミナー委員が教員に事前調査を行って紙媒体の予定表を作成して掲示し、教員に予約をした学生が名前を書き込んでいた。続く令和2年と3年は、新型コロナウイルス感染対策のために登校を控える学生がいることを考慮し、セミナー委員がMicrosoft Teams内に各教員の予定表ファイルと予約入力用ファイルを置いておき、県人会ごとに教員の予定を確認して予約を取って入力していき、セミナー委員や県人会の代表が調整を行っていた。そして本年は、セミナー委員が教員の空きコマと受験する自治体ごとの学生の空きコマを調査して原案を作成し、それを県人会へ提案して確認と再調整を行うという流れであった。原案作成に至るまでのセミナー委員の負担はかなり大きかったようであるが、今回のセミナー委員には全ての県人会からメンバーが入っていたため、その後はスムーズに進行できたということであった。

2 「顔晴り（がんばり）」の取組の実際

2.1 教員採用試験等報告書「顔晴り」

本学では教員採用試験等の報告書を「顔晴り」冊子と呼んでいる。本年度は全86頁で、主には、各期のセミナー、自治体別の学習会と小学校教員採用試験、一般企業採用試験（教員志望からの変更者向け）、臨時採用という内容である。教員採用試験の内容については、各試験に向けた学習方法、試験の実際が詳細に記述されていることに加え、後輩へのアドバイスが添えられている。「顔晴り」冊子については、今年度は紙媒体を教員と各ゼミ室に配付し、学生へは電子データをユニバーサルパスポートによって配信していた。この冊子は、教員や一般企業の採用試験を受けようと考えている後輩たちにとって貴重な資料であるとともに、学生の学びを支援する教員にとってもたいへん役立つものである。



【写真3・4：教員採用試験等報告書「顔晴り」】

2.2 教員採用試験等報告会「顔晴りの会」

本学では教員採用試験等の報告会を「顔晴りの会」と呼んでおり、本年は11月25日（金）の5コマに行われた。全体会は2号館の大講義室で開催され、その後の分科会は大講義室と2号館の中講義室、1号館の模擬授業室、書写・図工演習室、理科演習室Ⅰ，理科演習室Ⅱで行われた。



【写真5：「顔晴りの会」全体会】



【写真6：「顔晴りの会」分科会】

全体会では、セミナー委員の代表や教職センター長、教育学科長による挨拶の後、セミナー全般や使用したテキストについての説明と、複数の自治体を併願した者や教員採用試験から一般就職へ変更

した者からの報告が行われた。続く分科会では、広島、島根、鳥取、山口、愛媛、北九州、福岡、大分、宮崎、横浜の10グループを6会場に分散させ、4年生が作成した受験対策ノートや使用した参考書等を紹介したり、1～3年生が学習の開始時期や方法等について尋ねたりしていた。昨年まで、自治体ごとの説明は全体会で報告として行われていたが、本年はセミナー委員の工夫によって分科会で行うことになり、1～3年生が4年生の話を深く聞くことができていた。また、本年受験した者がいない自治体については、セミナー委員が事前に1～3年生へ調査を行っておいて、試験内容が近い自治体に組み入れていた。

3 令和4年度実施公立小学校教員採用試験の結果

令和4年度に実施された公立小学校教員採用試験の結果、各自治体の名簿に登載された者の人数を在學生と既卒者に分けて整理したものが表2である。

【表2：公立小学校教員採用試験の結果（令和4年11月17日までに連絡を受けたもの）】

(名)

	在學生	既卒者	計
広島県・市	24	9	33
島根県	6	0	6
鳥取県	1	0	1
山口県	4	1	5
愛媛県	4	0	4
福岡県	1	0	1
北九州市	1	0	1
長崎県	0	1	1
大分県	2	0	2
宮崎県	2	0	2
計	45	11	56

4 成果と課題

昨年までと同様に新型コロナウイルス対策が必要なことが多数あったが、本年もセミナー委員の工夫と努力により、セミナーの新たな運営方法が創造された。合わせて、教員側がセミナー委員の学生と共にセミナーの運営方法を検討したり事後にふり返ったりしたことで、どの点をどのように改善すべきかが明らかになってきている。

教員採用試験の結果は総じてほぼ好調であったが、募集人数の減少や受験者数の増加によって合格率に変動が出てきた自治体がある。セミナーや県人会、ゼミでの勉強会など、集団での学びをさらに広げるとともに、受験への意識づくりを早い段階から継続して行っていくように検討を続けたい。

参考・引用文献

- ・三田幸司「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際」(『広島文教女子大学 教職センター年報 第10号』広島文教大学教職センター、令和4年所収)
- ・広島文教大学教育学科初等教育専攻第1期生『顔晴り』、令和4年